

ラングドックワイン委員会（CIVL）では、定期的に皆様へラングドックワインに関するニュースレターをお送りしております。より多くの皆様がラングドックワインについての知識を深め、更なる興味を持って頂けますと幸いです。

【1】「業界関係者様向け」 11/5：東京、11/6：名古屋、11/7 大阪 ラングドックの AOC・IGP Sud de France のワインセミナー & 試飲会を開催

11月5日東京、6日名古屋、7日大阪にて業界関係者向けの「ラングドックワインのセミナーおよび試飲会」を開催致しました。今回のセミナーおよび試飲会に合わせて本国のラングドックワイン委員会より事務局長の Jérôme Villaret（ジェローム・ヴィラレ）が来日。今回の滞在でインポーターの皆様、ワイン販売に従事している皆様、メディアの皆様など多くの方々とのコミュニケーションを取ることが出来、日本市場についての知識を深めることができました。

セミナーでは事務局長のジェローム・ヴィラレによるラングドックの AOC ワイン、IGP シュッド・ド・フランスのワインについてプレゼン。その後、8種類のラングドックの AOC ワインをレストラン APICIUS のシェフ・ソムリエ、情野博之氏が大変分かりやすく解説しながら、マスタークラスを開催致しました。また、インポーター出展による試飲会には、多くの業界関係者にご来場者いただき、ラングドックワインの多様性について試飲を通して感じていただきました。



セミナーの様子



写真左：Jérôme Villaret（ジェローム・ヴィラレ）、右：セミナー講師 情野 博之氏（レストラン APICIUS シェフソムリエ）

【2】Vandange 2018 【ブドウ収穫】

ラングドック地方では、今年もブドウの収穫が無事に終わりました。厳しい天候に見舞われる時期もありましたが、総合的には今年のヴィンテージも例年どおり素晴らしい出来となりました。

春先の雨と、夏の規則的な雨と暑さに加え、8月半ば以降安定した気候と暑さと乾燥が、ブドウをとて品質の良い状態にしたことで、今年はエレガントで上品なタンニンを感じさせる素晴らしいヴィンテージになるでしょう。

一方、春先の降水量はラングドックの一部の地域で、ベト病（mildiou ミュルデュ）をもたらしました。ビオに熱心に取り組んでいるアペラシオン、とりわけ、Faugères フォージェールや Saint Chinian サン・シニアンなどの AOC はベト病に悩まされ、収穫量が減少しました。

下記は各 AOC から届いた今年の収穫とヴィンテージの様子についての報告です。

AOC フォージェール

レアで貴重なヴィンテージ。ビオの製法を実施している 50% のブドウ畑は収穫量が減少した。理由としては春先の雨に由来するベト病が挙げられる。その結果今年のヴィンテージは 2008 年に似て、貴重かつ、すべてフレッシュで豊かなものとなるだろう。

AOC ラ・クラブ

ラングドックの他の地域に比べ、春先の降水量が少なく、例年より少し遅れた収穫となったが、ベト病の影響は少なかった。夏の嵐によって、ブドウの成熟が進み、かつ 8 月の暑さをしのぐこともできたため、結果的に 2015 年の近い収穫量となった。

IGP コート・ド・トング

春先の雨と、暑さと乾燥が持続した気候により、ブドウがよく成熟し、それぞれのドメーヌの区画で理想的な収穫日を選ぶことができた。どの品種もよく成熟し、収穫量も十分。ソーヴィニヨン・ブランやヴィオニエはとてもアロマティックな特徴をもたらす。赤やロゼは、気象のコンディションにより、アルコール発酵するにあたり、素晴らしく甘さと酸味のバランスの取れたものとなっている。シラーはなめらかなタンニンを感じさせる。

AOC ラングドック・グレ・ド・モンペリエ

特別なヴィンテージ。今年のヴィンテージは、ブドウが最良の成熟状態になるよう、造り手たちが栽培過程でたゆまぬ熱心な仕事をした結果、質の高いものとなる。今年はすべてのコンディションが、特別なヴィンテージとなるよう整えられた。

AOC リムー

型にはまらない期待できるヴィンテージ。ベースのワインとなるキュヴェの試飲は、ポテンシャルがとても高い。ピノ・ノワールは、スグリの実やフレッシュなプラムのアロマが感じさせ、そのポテンシャルの高さをうかがわせる。



【3】Oenotourisme 【ワインツーリズム】

皆様は「l'oenotourisme」という言葉をご存知でしょうか？これはギリシャ語でワインを意味する接頭辞「oen(o)-」と「tourisme」の合成語です。「ワインツーリズム」といえるでしょう。

フランスでは、ワインを栽培している地域は一種の観光地として、ブドウやワインに関わる旅行商品を提供しています。その旅行人口は、2009年には750万人でしたが、2016年には1千万人がフランスのワインとブドウ畑を観光しに訪れました。その全体的な支出は52億ユーロにもなります。

ラングドック地方はまさに、このワインツーリズムのデスティネーションに相応しい場所といえます！地中海の太陽によって育まれた豊かなテロワールとラングドックワインは、赤、白、ロゼ、発泡性と、それぞれが固有の性格を持っています。またそれらは、この地方のガストロノミーと豊富な文化的遺産の一環を成しているのです。

ラングドックのワイン畑は、全体で24万5千ヘクタールに及び、フランスで最も広大なワイン生産地であり、最古の生産地でもあります。ニームからオードの境まで、モンペリエからカルカソンヌまで、山やガリーグや海の間、複数の長いワインの道が現れます。そしてそれは、決まって一つの共通点を備えています。**地中海です。**

ラングドックのワイン生産者たちは、彼らのカーヴを開放し、訪れた人々を地中海料理とワインで歓迎してくれます。またラングドックは、白ワインやロゼワイン、赤ワイン、甘口天然ワイン、発泡性ワイン、といったように、多様かつ細分されていることを、試飲で提供される種類の豊富なワインを通して知ることができるでしょう。また、この地方には文化的、あるいは建築に関する数多の必見スポットがあります。ポン・デュ・ガールや、ニームの闘技場や、カタリ派の里の城、そして、カルカソンヌの城壁都市「シテ」など。

次のご旅行のテーマはワインツーリズムに決めて、ラングドック地方を訪れてみてはいかがでしょうか？



ラングドックワイン委員会に関する詳しい情報は以下でもご紹介しています！

◆ラングドックワイン委員会 HP（フランス語）：



<http://www.languedoc-wines.com/>

◆Facebook(日本語)：

<https://www.facebook.com/languedoc.wines.jp/>

*毎週ラングドックワインについての情報をアップしております。ぜひ「いいね！」をお願いします。

◆Instagram(フランス語):

<https://www.instagram.com/vinsdulanguedoc/>

*フランス語ですが、ラングドックワインとラングドックの美しい写真をお楽しみください。

◆Youtube（英語）：

<https://www.youtube.com/user/LanguedocWinesVideos>

◆Youtube（日本語）：

https://www.youtube.com/playlist?list=PLQnHnBk4yUk9P9EBuMU04ARGNonN_K6-J

日本でのお問合せ先：

ラングドックワイン委員会 日本事務局 担当：伊藤・藤塚

TEL: +81-(0)3-5615-8177

FAX: +81-(0)3-5615-8178

E-mail: languedoc@audacejapan.com